



## 『宮沢賢治の真実 修羅を生きた詩人』

今野勉 新潮社／新潮文庫

本 館

請求記号：X/080/Sh61/Kon

資料ID：701670911

### ネットワーク情報学部准教授 杉田 このみ

著者の今野氏は、私の大学時代の恩師である。今野氏は現在90歳、1970年、日本初の映像制作会社テレビマンユニオン創業者の一人でテレビディレクター。テレビにしかできない表現を探求した数多くの番組が高く評価されている。現役は引退したものの、現在でも多くのテレビ関係者に尊敬されている。本書では、自然を愛し清廉な賢治像を一変する文語詩「猥れて嘲笑める」を知り、この詩の解明に挑んでいる。

私は学生の頃から、先生の素直で素朴な感覚と探究心を尊敬している。「僕」という一人称で自作について講義する姿は、学者のようでもあり、少年のようでもあった。

本書はまさにその今野氏の真骨頂。まず「猥れて嘲笑める、これなんて読むの？」から始まる。そして「ほの暗い森の奥深くから微かな燐光を放っている」と感じ、この詩を書いた日の賢治の行動を調べ、現地に赴き、同じ時間と場所を歩く。さらに、その日の天候や日没時間、見える星空なども調査する。取材と思索を重ね、6年の時をかけて賢治の真実を発見する。考察はこの詩のみならず、妹トシのこと、未完の「銀河鉄道の夜」まで及ぶ。

本書を読んでいるうちに気づいたら私も銀河鉄道に乗り、切符を手渡され、「ほんとうのさいわい」を探す賢治と、今野先生と旅をしていた。旅を終えたとき、暗い森の奥にいた賢治の姿が浮かび上がり、同時に「銀河鉄道の夜」の宇宙がより奥行きをもって見えてくる。